

2023 Global Forum for Food and Agriculture における若手農業従事者の声明文（翻訳）

昨年、私たちは複数の危機に直面しました。干ばつや洪水による気候変動、運営資源の価格上昇によるエネルギー危機、大量の生物多様性の喪失、そして慢性的な飢餓危機などです。不当なウクライナ侵攻はこれらの危機を引き起こし、私たちの食糧システム全体に影響を与えました。私たちは今、世界の食糧システムを変革するために緊急に行動が必要だと再度感じています。

私たち若い農業従事者は、これらの危機が私たちの日常生活に直接影響しているため、潜在的な解決策について話し合いました。私たちは、私たちの声明を読んで、あなた方に共有したいと思っています。私たちは、持続可能で手頃な価格で、文化的に適した栄養価の高い食糧をすべての人に提供することができるよう、あなた方に国内の立法プロセスでこれらの解決策を実施していただくことを望んでいます。

I. どうすれば危機に強い食品システムを作ることができるのか？

農民や家族経営農家は、世界中の人々が消費する食料の約70~80%を生産しています。しかし、彼らはまた、世界中で飢餓に直面している人口の80%、および極度の貧困に生きる世界の人口の約70%を占めています。女性は農場労働力の約50%を提供しています。彼らは伝統的に認識されず、異なる危機に特に影響を受けています。彼女たちの状況を改善するためには、女性の権利運動と協力する必要があります。農民の権利に関する国連宣言などの人権文書は、2023年までに貧困を撲滅し、ゼロ・ハンガーを達成するための国レベルの取り組みや世界的に調整された行動の中心に置かれるべきです。

農民は彼らに影響を与える決定の中心に置かれるべきです。政策決定過程全体において農民の直接的な参加が保証されることで、現地の知識が取り入れられ、政策が本当に地元発のものになるでしょう。

国家は、強靱で持続可能な食品システムを構築するために、グローバル経済内で構造的変革のための重要な政策転換を実施する必要があります。人権、特に食料の権利と食料主権の権利は、食品や農業に関連するすべての政策、プログラム、およびガバナンスプロセスの中心に置かれる必要があります。

私たちは皆、生態系に優しい持続可能な方法で生産された、健康的で文化的に適した食品を受けられる権利があります。この権利は、国家が人々の民主的な定義と制御を実現する権利を認識する場合にのみ、誰にでも享受されることができます。

市場の透明性と必要に応じた規制は、食料価格が生産コストや価値を反映し、有害な金融投機を防止するために必要です。パリティ価格と労働保護は、食品システムに従事するすべての人々に公正な収入を保証するための基本的な要素です。

小規模生産者、家族農家、土地のない人々にとって土地の権利を実現し、保護するためには、真の農地改革が必要です。公正な改革は、ジェンダー平等を達成し、若者の農村からの移住問題に取り組むために特に重要です。

アグロエコロジー的転換は、地域に根ざしたプロセスであることや、小規模食品生産者の自律性と適応能力を高めることで、文脈に沿った解決策を提供することができ、農村の貧困、飢餓、環境破壊の根本的な原因を解決するための鍵となります。FAO(国連食糧農業機関)が認めているように、アグロエコロジーは、食料の権利を実現するためにも、気候変動への適応や緩和を実現する上でも重要であり、さらに、農業の供給チェーンの環境負荷や、肥料不足、食品のロスや廃棄物の問題など、多くの課題に対処するために必要不可欠です。

II. 気候に優しい食品システムを作り、生物多様性を保存するにはどうすればよいか？

農業従事者は、気候変動の影響を受ける最初の人々であり、また農業は気候変動を引き起こす温室効果ガス（GHG）の排出にも影響を与えていることも事実です。しかし、農業は気候変動の解決につながる重要な役割を果たすことができます。したがって、経済的、社会的、環境的な持続可能性を提供する気候に配慮したフードシステム（食料の生産から流通、消費までの一連の流れや、食品産業など産業界の相互のかかわり）を構築する必要があります。近年のフードシステムの発展は、食品産業の確立など、多くの肯定的な結果をもたらし、農業以外に雇用機会を拡大し、地元の必需食を超え、食品の選択肢を広げ、味、形態、品質の面で消費者の好みを満たしています。

新しい食料生産システムは、世界のペースとニーズに追いつくために、手頃な価格でアクセス可能なテクノロジーの公正な使用、イノベーションの開放が必要ですが、同時に、食料生産に関与する次世代後継者たちを引き付けるための変革に苦しんでいます。

テクノロジーは、農業において一般的に機械や電子機器のみを意味すると誤解される言葉です。実際には、特定の気候条件を持つ特定の環境や、先住民族の知識を含む地域コミュニティで、作物が土壌と相互作用する特定の知識に基づく技術を指します。農業技術の進歩には、種または他の種の害虫駆除、窒素、その他の栄養素の入手可能性に有効であることが証明されている輪作の知識が含まれます。精密農業においては、資源を最適化しより多くを生産するために、農業従事者に活動を記録し、投下する資材や資本を効率的に使用方法を教えることに重点を置くべきです。現在の気候条件に適応しやすい作物品種の開発は、技術の進歩が世界人口を養う能力を向上させるのに役立つ方法の1つであり、農業従事者がより良い機会と労働に対するより大きなリターンを確保することができます。また、これにより伝統的/先住民の品種や農業従事者の自律性の喪失を犠牲にするべきではありません。

化学薬剤の誤用は、ほとんどの生産システムにおいて問題となっており、土壌の微生物含有量の影響が現れ、それによる構造、水保持力、透過性能の低下や生物多様性の減少が起きている。洪水や干ばつなどの目に見える問題だけでなく、一般人口にとっても同様に致命的な問題がありますが、特に農業労働者にとって深刻です。アグロエコロジーから抽出した概念を含む新しい肥料の開発において、よりクリーンで健康的な肥料を作る方法が示されています。精密農業やバイオテクノロジーは、生産性を向上させるために資源の最適化を図る方法です。また、農家が自分でそ

のような肥料を生産できることも重要であり、危機に強いシステムを開発するために世界が追求すべき食糧主権の目標に向けた大きな一歩です。

私たちは、持続可能な食料システムを実現するために、特定の地域や地域に合わせた地元の農業革新を開発し、効果的にコミュニケーションを取り、生産者に知識を伝えることが重要であると考えています。地元の生物学的薬剤を使用し、作物の残留物を土壌に戻して有機物を増やし、炭素レベルを上げることから、地域レベルから始めて、世界中の生産地域のためのより良い条件を作り出すことができると信じています。

世界には、自然や人間の活動による脅威に晒されている多様で豊かな生息地が存在します。調査と保護に継続的な取り組みが行われなければ、絶滅危惧種を含む世界遺産の一部である独自の生物種を失う可能性があります。世界の生物多様性の悪化の主要な原因には、農地の拡大や都市の成長、汚染（陸・海・空気）、天然資源の過剰利用（鉱物、石油、ガス）、気候変動、政治的不安定性、適切な政策や法的制度的な対応が不十分なことが含まれます。したがって、生物多様性を保全するためには、世界の指導者が意図的な決定を下し、重要な取り組みを行う必要があります。法律、規制、政策の調和を通じてそれを達成することが必要です。また、社会正義を実現し、世界経済のすべてのセクターで生物多様性の保全と持続可能な経済成長と開発を両立させることが重要です。戦略の一部として、生物多様性保全の重要性を広く知らせること、在来種の作物を保護すること、野生動物や絶滅危惧種を保護すること、森林破壊を禁止すること、自然生態系や農地を保存すること、土壌や水の天然資源の適切な利用などがあります。

一つの地域で代々使われてきた在来種や地元の種子を救済・保護することの重要性は過大評価できません。生産される種の地元の多様性を保護するために行われるどのような取り組みも、正しい方向に進んでいる一歩となります。また、砂漠化を回避し、適切な水の供給と分配に向けた森林保全への取り組みも重要です。

III.持続可能なグローバルフードシステムのためのコラボレーションをどのように改善できるのか？

グローバルな食料システムは複雑で多様ですが、大手の多国籍企業や各国政府が大半の権力を握っています。世界人口が増加する中、食料需要も増加していますが、世界中の場所によって食品嗜好が変動し、異なります。将来の需要を満たし、SDG2を達成するためには、農民と市場がより緊密に協力する必要があります。食料供給チェーンを短縮し、農民が消費者のニーズの変化に常に適応する必要があり、消費者および政策立案者は食品生産についてより良い理解を持つ必要があります。農民と消費者の理解のギャップは年々拡大しており、これを埋める必要があります。SDG2を達成するためには、飢餓危機は食品生産に関する問題だけでなく、食品の価格、アクセス性、配分の問題でもあることを認める必要があります。したがって、地元や地域の食品生産を人々の栄養ニーズに適応させる必要があります。農民の協同組合を地元、国内、国際的に強化することが、農民と消費者のギャップを埋めるための鍵となります。これは、持続可能な開発のための国連の目標を達成するために必要なパートナーシップと協力の中心に位置しているSDG17でも求められています。国際的な協力は、草の根から政府や多国間機関まで、すべてのレベルで強化される必要があります。

国境を越えたより良い協力が必要です。特に、食料不足の国と食料生産が豊富な国を結びつけて、食料安全保障を確保する必要があります。より強靱で危機に強く、気候に優しいグローバルな食料システムを実現するために、サプライチェーンや政策決定過程での農家の権利、平等、経済、参加を強化する必要があります。これにより、農家は自分たちの農場を改善し、生産される食料を向上させる機会を得ることができます。

グローバルなフィールドの均等化は必要不可欠です。食品生産者は、製品を販売し、重要なツールや資材を入手するために、地元、地域、そしてグローバルな市場に依存しています。情報や知識にアクセスすることは、農家がより少ない資源でより多くの生産を行うために必要不可欠です。

全ての農家は、すべてのレベルで農業政策を決定する能力を持つべきです。持続可能なグローバルな食料システムのための国際的な協力を改善するために、国連世界食糧安全保障委員会（CFS）を参加型の多元利害関係者フォーラムとして強化する必要があります。CFSの必須かつ自律的な部分である市民社会および先住民族のメカニズム（CSIPM）を支援することで、CFSのプロセスにおけるCSIPMの方針をサポートするために、より多くの資金援助が必要です。CFSを強化する別のオプションは、農業組織の代表を確保する機会を探ることです。

ワン・ヘルスアプローチ（人と動物、生態系の健康をひとつとみなし、守っていこうとする考え方）を実現するためには、以下のアクションが重要です。

- ・ アグロエコロジーの拡大
- ・ 抗微生物薬耐性（AMR）に取り組むためのUNによる単一の組織の設立
- ・ 政治プロセスにおける企業の影響力に関する利益相反の問題の解決。

若い農業従事者は以下の点について異なる意見を表明しました：

- ・ 「農民が商品を取引する際に直面する障壁を減らすことで、グローバルな食品システムの強靱性を向上させる必要があります。また、輸入・輸出政策は、国内の食品の品質を保証する必要があります。」
- ・ 「国の農業政策は、国内消費と食料自給率を優先すべきであり、輸入に依存し、（経済的、政治的変化による）ショックに脆弱な状態を減らす必要があります。」

【利用時のお願い】

この声明文は2023年1月にドイツにて開催された国際農業イベント「Global Forum for Food and Agriculture」において、世界から集まった若い農業青年たちが議論し、たどり着いた声明文であり、原文は以下のURLから参照できます。作者はChatGPTを活用してAI翻訳し、可能な限り読みやすい文章に編集していますが、翻訳の正確さを保証するものではありません。翻訳文をご利用になる際は、原文を参照しながら、翻訳ミスや解釈違いなどのリスクに十分に気をつけてください。この翻訳文を利用することで生じたいかなる事態についても、翻訳者が賠償責任を負わないものとします。

オフィス・セイケ

原文URL: <https://gffa-berlin.de/wp-content/uploads/2015/10/GFFA-Young-Farmer-Statement-2023.pdf>